

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
1	12.7(火)	東葛城	発言者A	<p>適正化の取組や、小中一貫教育を行う上で、対応が必要なことが多数あるということであった。こうした課題について、今後（仮称）学校開校準備委員会で詳細検討をすると理解した。</p> <p>準備委員会でつくり上げた最終案について説明を願うとともに、地域住民の賛否を問うていただきたい。</p>	<p>今後の進め方については、地域説明会終了後、各校区ごとにいただいたご意見・ご質問のとりまとめを行い、それらに対する教育委員会の考え方をホームページで公開する予定である。</p> <p>また、各校区ごとで最終案の策定に向けて協議を重ね、適正化に係る課題の解決を図っていく。その中で、教育委員会と地域の皆様との間で一定の合意に至れば、（仮称）学校開校準備委員会を設置し、新たな学校の校歌・校章や、通学手段についての詳細な検討を行う。</p> <p>また、準備委員会を設置するにあたっては予算を伴うため、市議会の議決を得る必要があり、関連予算について議決を得られれば、新たな学校の開校に向けて具体的な準備に着手していくこととなる。</p>
2	12.7(火)	東葛城	発言者A	<p>現状の課題解消を目的としているが、適正化がなされた後、5年ないし10年後、効果の検証を行っていただきたい。</p>	<p>新たに開校された学校において、子どもたちにとってのより良い教育環境が実現しているのか、また通学環境の安心安全が確保されているのか、といった検証は、継続的にしっかりと行っていく。</p>
3	12.7(火)	東葛城	発言者B	<p>東葛城小学校における特認校制度は失敗したような説明であったように感じられたが、教育委員会の認識として、失敗と捉えているのか。</p>	<p>東葛城小学校における特認校制度については、地域の皆様から制度導入の意思が示され、教育委員会としても、目前に迫る複式学級を回避するため、制度導入を決定し、現在に至っている。</p> <p>地域の皆様に支えていただきながら、東葛城小学校区の児童が、他校区から来た児童とともに学ぶことで、多様な考えに触れながら、特色ある教育活動を受けてきたことや、特認校制度を利用する児童も増えてきている等の状況を鑑みると、一定の成果はあったものと認識している。</p> <p>一方、当初より学校全体の児童数は増えているものの、教育委員会がめざす、一定の集団規模に至ることは難しいと考えている。</p>
4	12.7(火)	東葛城	発言者B	<p>（仮称）山滝小中一貫校と（仮称）葛城小中一貫校において、特認校制度を導入するメリットはあるのか。</p>	<p>両校においても、地域の皆様に支えていただきながら、特色ある教育活動を実施していきたいと考えており、東葛城小学校で実践してきたノウハウも取り入れ、活かしていきたいと考えている。</p>
5	12.7(火)	東葛城	発言者B	<p>メリットを掲げていることはわかるが、デメリットについても詳しく説明を願う。</p>	<p>適正化の取組が進んだ場合、学校が開校となった地域の児童にとって、通学距離が長くなるという課題や、これまで小学校区単位で活動してこられた地域コミュニティへの影響が生じる課題が挙げられる。</p> <p>なお、学校の閉校に伴い、地域コミュニティの活動単位を、小・中学校の再編に合わせて変更を強いる考えはなく、行政としても活動のサポートに努めていく。</p> <p>また、小中一貫校における課題については、小・中学校のチャイムが45分授業と50分授業で異なる点、小学6年生の最上級生という意識が薄れるという懸念が挙げられる。現在も小中一貫教育推進会議において、先進事例の研究を含め、討議を重ねており、今後も課題解消に向けて取り組んでいく。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
6	12.7(火)	東葛城	発言者C	<p>児童生徒の数ありきだと思うが、現時点でもできることは多いのではないかと。小・中間のギャップや多様性について言及しているが、小規模な環境で育ってきた東葛城地域の人々に多様性が欠けているのか、と尋ねられればどう答えるのか。</p> <p>少人数で、自然豊かで、地域コミュニティがあり、おじいちゃんやおばあちゃんの声掛けもあり、田植えの手伝い等もしてくれる、このような環境で育ってきたことを否定していることに気付いているのか。児童生徒の数を集めれば、多様性が確保されるのか。</p> <p>仮に、市長や議会が「小規模校を残せ」という方針を示していた場合、職員は学校を残すため、真逆の資料を作ると思う。</p> <p>企業でも何でも、違う文化の人間を集めると、必ず軋轢が生じる。教員にしても、小・中学校の教員を集めれば、文化の違いで摩擦が起き、上手くいかない。そこで試行錯誤し、誰かがリーダーシップをとらないといけない。</p> <p>東葛城小学校がなくなった場合、地域コミュニティがなくなるが、そこに対する手当てについての言及はなく、今の東葛城小学校の良さも記載されていない。</p> <p>方向性ありきではなく、地域のこと、学校のことをもっと掘り下げていただきたい。</p>	<p>地域の皆様から一生懸命に支えていただいたことにより、東葛城小学校は、特認校制度をはじめ、小規模校としての良さを十分に発揮してこられたものと認識している。</p> <p>これまでの教育内容を否定するのではなく、きめ細かな教育によって、一人ひとりがしっかりと学べていることは、小規模校の素晴らしいところだと思う。</p> <p>一方、近年、社会・経済が大きく変化しており、これまでであれば特定の地域で経済が回り、地域の中で自分たちの未来を築いていくことができたものの、現在は一度就職しても、一生働けるかはわからず、グローバル化のもと、世界とともに競い合うような社会に変化してきた。</p> <p>そうした社会においては、多様な文化や考え方の中で、自分を高めていく教育が必要であり、子どもの頃から多様な考えに触れて学んでいくスキルが必要となる。このため、文科省においても「主体的・対話的で深い学び」を提唱している。そうした学びを展開する上で、どうしても小規模校では制約が生じるため、適正規模・適正配置の取組を進めようとしている。</p>
7	12.7(火)	東葛城	発言者C	<p>分離型の小中一貫教育を行っている学校は、全国でたくさんあると思う。中1ギャップをなくすための、現在における取組を聞きたい。</p> <p>児童生徒数が多くなった場合、いじめや学力の状況は変わるのか。現在は人数が少ない中で、きめ細かくみていけると思うが、人数が増えれば教員がみられるのか。</p> <p>また、中学校より小学校、小学校より幼稚園と、年齢が下の校種であれば、教員もよりきめ細かくみているように思うが、教員を変えることはできるのか。大人を変えることは非常に難しい。</p> <p>「新たな科」「系統性をもった教育」等は学校が分離していても可能だし、中1ギャップは何十年も前から課題とされる中、解決できていないこと。教職員の意識も変えようと思えば変えられるはずなのに、変えられていない状況を、施設が一つになれば変えられるのか。</p>	<p>小中一貫教育については、小・中学校が分離していても進めなければならないと認識しており、岸和田市においても、市内全域で小中一貫教育を推進していく必要があると考えている。</p> <p>一方、小・中学校が同じ敷地あるいは隣接して設置されていれば、教員の相互乗り入れにおいても、物理的・時間的なメリットが多い。同じ小中一貫教育を行う上でも、施設分離型より、施設一体型あるいは隣接型の方が、より望ましいものと認識している。</p>
8	12.7(火)	東葛城	発言者C	<p>東葛城小学校では、教員負担についても、普通の丸付け等の負担は少ないだろう。</p>	<p>教員負担について、東葛城小学校では1学級あたりの人数も少人数化しているため、確かに丸付けといった業務負担は比較的軽いかもしれない。一方、PTA活動、教育委員会との連絡調整、学校行事の企画等、様々な校務があり、それらは学校規模に関わらず存在するため、小規模校では校務負担が重くなり、子どもたちと十分に触れ合う時間が取りにくいといった課題もある。</p> <p>また、教員数が少ないことにより、教員が何らかの理由で長期間休む場合、代替が利きにくい。非常勤講師の確保も難しくなっており、その間の教育がストップしてしまう危惧がある。</p>
9	12.7(火)	東葛城	発言者D	<p>市民に大きな痛みを伴う施策であり、市長が出席した上で、直接市民の声を聞くべきだと考える。教育委員会から「伝えおく」ではなく、直接聞いてもらう場を設けていただくよう要望する。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
10	12.7(火)	東葛城	発言者D	来年1月には市長選挙があり、再来年4月には市議会議員選挙がある。ここで反対が多数ということになれば、教育委員会はどのように説得するのか。	<p>適正規模・適正配置の取組については、前市長の時代、平成29年度の総合教育会議において議論が始まっている。現市長においても、政策決定会議において、実施計画（案）を承認しており、意見の一致を以て取組に着手しているところ。</p> <p>仮に、今後市長が替わった際に、計画（案）を取り下げる可能性はゼロではないものの、学校の小規模化が課題となる中、今後もさらに小規模化が進行していくことは事実であり、教育委員会としては、時代の要請として、課題解消に取り組んでいくべきものと捉えている。</p> <p>市議会については、実施計画（案）の承認を受けているわけではないが、説明会を行うことには了承を得ている。今後、いただいたご意見・ご質問と、それらに対する教育委員会の考え方について、随時説明をしていく中で、今後、市議会がどのような判断をされるのかである。</p>
11	12.7(火)	東葛城	発言者D	<p>校区によっては、地域説明会で怒号が飛び、開催時間も1時間以上延長するようなこともあった。</p> <p>地域の理解を得た上で、（仮称）学校開校準備委員会を設置するとしているが、それが可能なところまで進められるのか疑問。</p>	【ご意見として承る】
12	12.7(火)	東葛城	発言者D	専科教員の配置に関する課題を挙げていたが、例えば貝塚市では、プールの授業に際して、各学校で集まって、移動した先の温水プールで行っている。そうした工夫で可能なことがあるのではないかと。	ご紹介いただいた事例については、教員負担の軽減といった面を含め、参考とさせていただきます。
13	12.7(火)	東葛城	発言者D	<p>OECDやEUにおいては、20人以下の学級が普通であり、今後さらなる少人数化が見込まれるということ、これまで伝えてきたところ。</p> <p>その中で、小規模校の課題として「クラス替えができず、人間関係が固定化し、多くの友だちをつくりにくい」といった説明があったが、皆さんは社会人として、100人や1000人の友だちがいるのか。子どもたちにだけ、そのような大勢の友だちをつくるように強いことは無理があるのではないかと。</p>	海外における学級あたりの人数についてのご意見をいただいたが、子どもたちの教育環境を考える上では、学校全体の児童生徒数である「学校規模」と、1クラスあたりの児童生徒数である「学級規模」があると捉えており、今回の適正規模・適正配置の取組で示す規模は、前者の学校規模のことである。学校規模について、一定の集団規模を確保することで、より良い教育環境を整備することが目的である。
14	12.7(火)	東葛城	発言者D	<p>無着成恭氏が行っていた生活綴方教育「山びこ学校」は非常に有名だが、小規模校でも可能な取組はないのかと考える。</p> <p>学校がなくなれば、子育て世代が住まなくなってしまう危惧から、小規模特認校という形で、浜手の子どもたちに、山手の学校へ来てもらうことが必要ではないかと以前より提唱しており、結果的には東葛城小学校でも小規模特認校制度が導入された。</p>	【ご意見として承る】

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
15	12.7(火)	東葛城	発言者D	<p>近年では、成績優秀な優等生であっても、学校にいられない「浮きこぼれ」が問題視されている。</p> <p>成績が悪いから不登校になるのではなく、成績が良すぎて不登校になるという子どもがいる中で、以前の説明会でも申し上げたように、「イェナプラン教育」を広島県福山市で導入されている。また、好きな場所で、好きな科目について自分のペースで取り組むマイプラン学習について導入している学校もある。</p> <p>小中一貫校になれば、荒れている中学生も、年少者の見本となる態度が生まれ、課題も解決するのではないかと、といった説明があったが、現時点でも学校の中で教えあえる教育ができるのではないかと。</p> <p>日本各地の公教育で行われている事例について、研究し、試行したのか。その上でどうしようもないために小中一貫校を設置するというのであれば、一定理解は得られやすいと思うが。</p>	<p>小中一貫教育基本方針では、現時点で行っている小中連携の取組を、可能なことから発展させ、小中一貫教育の取組につなげていくことを目的としている。</p> <p>現在の分離型小・中学校の形態においても、教えあう教育が可能ではないか、という点については仰るとおり。小中連携、小中一貫教育の中でも、取り組んでいく。</p> <p>また、国内外における様々な先進事例については把握している。なお、日本では学習指導要領に則った教育が大前提となり、その中で、どのような特色を持った教育が可能なのか検討していく必要があると認識している。</p>
16	12.7(火)	東葛城	発言者D	<p>仮にこの取組を進めるにしても、激変緩和措置として、一気に複数の学校を廃校にするのではなく、通学区域の見直しを以て、1校ずつ廃校にしていくといった方策はとれないか。</p>	<p>仰るような手法は、適正化を行う方法の一つとして考えられる。</p> <p>一方、これまで地域説明会を行う中では、通学区域を見直すことについても、地域において活動してきたこと、子どもたちを支えてきたことが壊されてしまう、地域コミュニティの存続にも関わる、と強く反対されることもあった。</p> <p>どの方策においても、簡単には進められず、地域や保護者の皆様からの賛否があることを実感している。</p>
17	12.7(火)	東葛城	発言者E	<p>小規模校の児童生徒、また卒業生において、社会性や協調性、コミュニケーション能力が劣るといった学術的知見があるのか。</p>	<p>小規模校には小規模校としてのメリットがあると認識しており、小規模校で学校生活を過ごしてきた児童生徒、卒業生が、社会性や協調性、コミュニケーション能力に劣るということは考えていない。</p> <p>一方で小規模校に課題があると判断した根拠については、国が学識経験者を交えた中央教育審議会で議論を重ねた結果、策定した手引において、12～18学級が望ましい学校規模だと示していることが挙げられる。</p> <p>岸和田市においても、学識経験者、PTA代表、町会連合会代表、民生委員児童委員代表等に参画いただき、審議会を設置した。その審議会答申においても、国が示すものと同様、12～18学級が望ましいということであった。</p> <p>加えて、教員、児童生徒、保護者を対象に行ったアンケート調査においても、12～18学級が望ましいとする回答が多数を占めた。</p> <p>これらを総合的に鑑みて基本方針を策定し、その基本方針をもとに策定したものが、今回お示ししている実施計画（案）である。</p>
18	12.7(火)	東葛城	発言者E	<p>東葛城小学校では、頻繁に学級通信が発行されている。大規模校の保護者と話をしても、「うちの学校ではそんなに頻繁に出ないよ」といったことを聞く。保護者とのコミュニケーションが十分に取られていると認識している。</p>	<p>学級通信については、大規模な学校においても、担任教員によっては頻繁に発行されていることもある。一概に学校規模によって違いがあるものとは捉えていない。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
19	12.7(火)	東葛城	発言者E	<p>授業参観で感じたことだが、タブレット端末を使った授業がとてもスムーズに進んでいる。大規模な学校では、なかなか上手いかわないということも聞き及んでいる。ICT教育を行う上でも、小規模の方が良いのではないかと。</p>	<p>東葛城小学校において、ICT教育がスムーズに進んでいることは、教育委員会としても報告を受けている。ただし、大規模な学校においても、タブレット端末を上手く活用し、ICT教育をスムーズに進めている学校もある。</p> <p>ICT教育については、学校規模に関わらず、取り組んでいく必要があると認識している。</p>
20	12.7(火)	東葛城	発言者F	<p>特認校は子どもの受け口になっていると考えている。保護者としても、小学校に上がって躓いて、この学校があったから、今は楽しく通学できているということがある。</p> <p>授業を見学した際も、前の学校との違いに驚き「なんて落ち着いた環境で、みんなが意欲的に勉強しているんだ」と感じ、東葛城小学校に転入することを決めた。</p> <p>子どもたちも、この地域に引越したいと話すくらい気に入っており、そういった子どもたちの気持ちを大切にしてほしい。</p> <p>葛城中学校に統合され、規模が大きくなることで、畑作業の体験や、地域のおじいちゃんおばあちゃんとの触れ合いといった素敵な経験が減ってしまうことがとても残念。意見として。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
21	12.7(火)	東葛城	発言者G	<p>東葛城小学校を卒業してから、中学校、高校と進むにつれて、学校規模は大きくなっていくが、人数が増えていくと、学校行事にも参加しない人が出てくる。</p> <p>勉強の面でも、人数が少ないが故に、教員が細かくみてくれて、声掛けもしてくれていたが、進学して人数が増えていく中で、そうした声掛けも少なくなり、質問をするといったコミュニケーションが少なくなっていくので、どうかと思う。</p>	<p>学校規模に関わらず、声掛けを含め、子どもたちにしっかり接していくことは、小学校、中学校、高校いずれにおいても大切なことだと認識している。教員にとって重要な心構えとして、今後も発信に努めていく。</p>
22	12.7(火)	東葛城	発言者F	<p>子どもが特認校に通っていることで、周囲の保護者から「どこに行っているの?」と尋ねられることがある。東葛城小学校での特認校制度を知らない人が多すぎる。周知に努めていただければ、来たいと思う人も増えると思う。実際、周囲の保護者と話をする中では、「いいなあ」という意見や、「行きたいけど、送迎が難しいから…」といった意見もある。そういったところをやりやすくすれば、人数も増えると思うのだが、工夫や考えはあるか。</p>	<p>特認校制度を利用されて数年経っておられるのであれば、当時は地域交流イベントといった行事があったと思う。コロナ禍においては、そのような行事を開催できておらず、制度の周知がしにくい状況にある。</p> <p>現在は、各小学校にパンフレットを配置し、制度の周知に努めているところ。今後、新型コロナウイルスの状況が落ち着いてくれば、また様々な形で周知を図っていきたいと考えている。</p>